

第4回 青森市総合計画審議会 第3分科会 議事要旨

- 【日 時】 令和6年4月25日（木） 13:25～14:15
- 【場 所】 アップルパレス 2階 マリアージュ
- 【出席者】 佐々木 淳一 分科会会長、小山内 敬子 委員、
佐藤 一成 委員、立木 祥一郎 委員、本田 明弘 委員 計5人
- 【欠席者】 なし
- 【オブザーバー・傍聴者等】 なし
- 【関係部局】 木村市民部次長、佐々木環境部長、加福保健部次長、中井都市整備部長、
石村浪岡振興部次長、武井教育委員会事務局理事、三浦企業局水道部長、
佐々木企業局交通部長、長内青森地域広域事務組合事務局長 計9人
- 【事務局】 齊藤企画調整課長、杉田企画調整課主幹、工藤企画調整課主事 計3人
- 【配付資料】

- ・次第
- ・分科会の各資料について
- ・分科会で審議いただきたい内容について
- ・各政策における「基本方向」、「現状と課題」、「主な取組」一覧表

【会議概要】

○事務局から、今後の主なスケジュールを報告した後、資料の見方について説明し、各委員が意見を出し合った。

○審議、質疑応答の概要

「政策1 コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくり」について

（委員）

- ・政策名のところに、コンパクト・プラス・ネットワークとあり、施策が①、②、③とあるが、施策①のコンパクトな拠点づくりのところで拠点だけではなく、例えば「複数の拠点とネットワークづくりの促進」など、公共的的な「繋ぐ」という意味の言葉を入れたほうがいいのではないか。

（委員）

- ・ウォークブルシティ、街の中を歩かせようという部分が全体的に見てどこにも入っていないので強く打ち出したほうがいい。地域住民にも観光客にも共有していくような、青森を面白く豊かにしていくという、青森ならではの地名、固有名詞、地勢みたいなものの中に落とし込まれたかたちにできないか。そのような青森のまちでしかできない楽しみ方がその都市の個性化にも繋がるし、それこそが長期的なまちづくりの指針になっていくと思う。
- ・中心市街地や松原、操車場跡地などいくつか個性的な拠点はありますが、大きな視点で、その拠点を繋ぐネットワークがどこにどういうイメージで繋がっていくかというビジョン

をどう書くのか、もう少し具体的にしてほしい。

(委員)

- ・青森市の絵を描いてそれを基に、そして、どこのエリアがこういう拠点で、それを結ぶという絵ができればもっと分かりやすいと思う。具体的なイメージも伝わると思うので、工夫してみてもどうか。

(委員)

- ・少し抽象的なイメージで、青森でしかこのビジョンは書けないなっていうものがやっぱりとてもいいかなと思う。

(委員)

- ・基本構想と基本計画があり、その政策という大きい部分にぶら下がって各部セクションにおいて個別計画が出てくると思うがその理解でいいか。

(事務局)

- ・御認識のとおり。

(委員)

- ・具体的な事業等については、そちらのほうで整理されていくと思う。ただ、文言を加えるということは問題ない。

(委員)

- ・具体的なイメージを共有した上で、その上部の文章としてはこのくらいのことは書いていたほうがいいのか。それを皆さんがどう思われているかを共有したい。

(委員)

- ・この計画は政策レベルであり、そこにはいろいろな事業がぶら下がるということはお含みいただきたいということと、これは全部を取りまとめ、到達点で今日出ているわけではなく、事務局のほうで意見を持ち帰って、次回またフィードバックするということが御理解いただきたい。

(委員)

- ・ここに特出しされているのは、青森駅周辺と新青森、操車場、浪岡、造道、浜田だが、他にもあるのか。例えば松原地区が入っていないし、合浦公園や川の沿線とか、もう少し点が面になってネットワークを結んでいるようなイメージをドラフト（原案）として書いたほうがいいのか。

(委員)

- ・青森市というくくりで言うともっと広いと思うが、その他は対象にしないということでよいか。

(委員)

- ・浅虫などもある。

(委員)

- ・対象というより「コンパクト・プラス・ネットワーク」として横串を通すという意味で、ある程度大きいところを出したということだと思う。松原など他のエリアは各事業ごとに完結していくものという理解でいいか。

(事務局)

- ・御認識のとおり。

(委員)

- ・青森駅周辺や操車場跡地、浜田周辺地区などは特出しされているが、本来であればもう全部網羅した上で、プライオリティをつけるものだと思う。ここに書かれていることは推進されていくと思うが、網羅した上で入れる、入れないということが議論されたほうがいいと思う。

(委員)

- ・青い森鉄道やバス、道路のネットワークとか主要な都市軸みたいなものはあると思うので、それをどう捉えて、その結ぶエリアがこうなっていて、こういうふうに繋いでいくとかという部分がないとデザインしたことになるのではないか。

「政策2 災害防止・雪対策の充実」について

(委員)

- ・青森市で起こった災害に対してどう対応するかという話はもちろんあるが、他所の土地、石川県のようなところに職員を派遣したりすると思うが、その部分はここには入れなくていいのか。

(委員)

- ・都市間で相互協定を結んだりするケースがあると思うがこの部分はどうするのか。

(委員)

- ・都市基盤整備についての内容だが、人の連携みたいなこと、実際に起きた時にどう対応するのかという災害時の人の連携の強化などソフト面がもう少し書かれてもいい。

(委員)

- ・今の意見はコミュニティというソフトの連携の部分だが、他の分科会で整理されるのか。

(事務局)

- ・防災の関連のソフト部分に関しては第2分科会となる。御意見は頂戴し、整理させていただく。

(委員)

- ・今の意見は第2分科会のほうにも伝えていただきたい。

(委員)

- ・他県との災害連携については派遣ボランティアの受入体制も含まれるのか。

(委員)

- ・災害時のボランティアについて、民間力として企業が、例えば食料の備蓄や避難スペースを設置などによって被災者の方を応援するような制度というのはだいぶ進んでいると思うが、その辺が全然言及されていないのではないかと。民間力、企業力というところの取組を入れたほうがいいのかと思う。

(委員)

- ・企業とか割と大きめの会社とか、それから、例えば青森市が被災したっていうケースもあるが、隣県の地域で被災した人たちをどのようにして受け入れるのかとか、そういうことも非常に連携するという意味合いでは、多分相互にやっていく必要があるので、その辺の大きな施策との関連もあるが、必要なことだと思うので漏らさないほうがいい。

「政策3 都市景観・居住環境の充実」について

(委員)

- ・施策②の安全で快適な居住環境の充実のところ、住宅の場合、耐震性と省エネ性、断熱性能も含めたところを気にされる方が多い。特に、青森市は寒冷地であり、そういう意味で、この中に耐震診断とか耐震性のことはあるが、省エネ性とか耐熱性というところがない。その辺りの環境負荷やエネルギー負荷の少ない住宅の普及や促進のような内容を入れてはどうか。

(委員)

- ・景観について、管理するだけじゃなく、植えたもの、木々を愛でて豊かに管理していくという方向性は示していったほうがいいのではないかと。自然環境を景観の中に取り込むということを積極的に進めていったほうがいい。

(委員)

- ・施策②の3本目の文章の、空き家等を始めとする既存住宅ストックの、というところで、街中や郊外などへの円滑な住み替えを促進しますとあるんですが、これは「郊外などへの円滑な促進」ということでいいか。間違いではないか。

(委員)

- ・これは世代やニーズに応じたやり方という意味だと思う。例えば若い方は郊外に行き、高齢者の方は中心部に行って、ウォークブルタウンみたいな生活をするという理解でいいか。

(事務局)

- ・御認識のとおり。

「政策4 社会情勢の変化に対応した交通環境の充実」について

(委員)

- ・先程のネットワークとも少し関連するが、特に交通がクロスするところに関しては、冬の寒い時にそこで待つのは耐えられないので、なるべく暖かい環境で待てるようなかたちにぜひなってもらいたいなど常々思っている。

(委員)

- ・「バスは今ここまで来ています。」というような掲示機能が何箇所かであるようだが、今後もさらに広がっていくのか。

(関係部局)

- ・現在、バスロケーションシステムを搭載しており、スマホ等を使えば、バスがどこを通過しているとか、それをマイ時刻表という機能で自分が乗る路線だけを取り出してみることが出来るので、スマホを活用しバスの通過具合が分かるようになっている。パソコンでも見る事ができるが基本的には外出中なのでスマホのほうを御利用いただければと思う。

(委員)

- ・夜間や災害時などのタクシー運行がないことは、地域の課題として非常に大きい。主な取組にバスやタクシーなどの利用環境について記載しているが、もう少し取組を書けないか。
- ・また、そのことについて、市のほうで何か施策で考えていることや、実際に何かそのような困難があるということ把握しているかを伺いたい。

(関係部局)

- ・浪岡地区ではコミュニティバスからデマンドバスへ切り替わり、時間も8時から5時までで運行している。夜間などのタクシー事情も感じているが、現時点で具体の取組はないところ。

「政策5 未来につなぐ自然環境の保全・快適な生活環境の確保」について

(委員)

- ・青森の貴重な自然環境、資源としては森林資源と水産資源の2つ。これらをしっかり利活用しながら守っていくということが大事だと思っており、その辺りの言葉を森林資源の利活用という言葉で入れていただいている。また、再生可能エネルギーと自然環境との共生などを盛り込んでいただいているのでいいと思う。

「政策6 脱炭素・循環型社会の実現」について

(委員)

- ・青森港の基地港の話が正式に決まってくると思うが、青森市の物流のやり方が変わるんじゃないかと思っている。最近カーボンニュートラルポートなどのキーワードが飛び交っており、青森市がどう変わっていくかを示せばいいと思う。決してネガティブになる必要はなく、せっかく国の施策として走り始めているので、上手に乗るほうが賢いのではないか。

(委員)

- ・カーボンニュートラルに関して、青森独特の施策は何かあるのか。

(関係部局)

- ・全国一律の可能性は高いが、雪国なので太陽光などの影響を少し考えた作り方がある。実際に太陽光を通常どおり作るのかどうかということ以外に、今は垂直立てなど雪にも影響のないような太陽光とかも技術的に開発されている。

(委員)

- ・例えば八戸だと結構メガソーラーがあるが、青森市はその太陽光資源という意味ではあまり太陽光の需要は高くはないのか。

(関係部局)

- ・メガソーラー自体は青森市内でもそれなりの規模で開発されているが、住宅の屋根自体が無落雪型の住宅が圧倒的に多いため、なかなか個人住宅の普及が進んでいないというのが実態である。

(委員)

- ・日照時間も関係あると思う。

(関係部局)

- ・気温があまりにも高いと実は発電しないという傾向もあり、また、日照時間は低いほうではあるが曇りでも発電するため、東京都と比較してもそれなりの発電能力、ポテンシャルはあるというのが事実。

(事務局)

- ・先ほどの洋上風力の関係については、資料1のほうに一覧があるが、第1分科会の1-2-2のGXの施策で具体の取組を検討していく。

(委員)

- ・おそらくGXであれば経済産業省関係だと思う。カーボンニュートラルポートは国土交通省で始まっているので、漏れがないようカバーしてもらえればと思う。

○今日の意見の取扱等の事務連絡を行い解散。